

まちが家族しているまち

7票

■語の意味：“まちが家族している”は、まちが家庭の一員であるわけではなく、家族の機能を一部していることを表しています。具体的には、保育所やファミリーサポート、まちとも、介護施設などがあたります。

■市民ワークショップでの意見を踏まえて：“家族を超えたつながりを実現するまち”や“ムリのない心地よい距離感の支え合い方を選択できる”などの言葉から、住む人をやさしく包み込むようなことをしている表現として、“家族している”を使用しました。

■方向性によるまちのイメージ：自然な支え合い方ができているまちを表現するとき、場所も時間も超えてつながれる“家族”というフレーズが象徴的と考えています。さらに家族であるのではなく、必要な部分を家族しているまち、という表現にしています。自然な支え合いや、地域を作り続けることができている、2040年の町田では、まちが家族しているといわれるようなまちになっている、そうしたまちの姿をあらわしています。

つながりが力になるまち

12票

■語の意味：“つながり”は、多種多様な主体が、同じく多種多様なコトや取組をしていることを表しています。“力になる”は、多様な主体と多様な取組が掛け合わさり、何倍もの価値を生んでいる事を表しています。

■市民ワークショップでの意見を踏まえて：市民ワークショップでは、多様な地域の範囲のもと、多彩な取組や活動、コトが起きているまちであると、2040年の町田を表現しています。そうした状況が作り出すまちの姿を現しました。

■方向性によるまちのイメージ：背景が異なる多くの人々が、多様な範囲で、自分にできる多様なつながり方をしているとき、掛け算のように新しい価値広がっていくまちになっています。自分ができる範囲でのつながることで、居場所を見つけることができ、まちへの愛着がわいてきます。新しい価値を生み出す力や、まちをすきになることを、“つながりが力になる”と表現しました。まちづくりの方向性に向かって進んでいった際に、つながりが力を生み出す懐かしくもあり新しい未来の姿が、2040年のなりたいまちの姿です。

誰もが自分らしくいられるまち

8票

■語の意味：“誰もが”には、まちには多様な主体がいることを、“自分らしく”には、多様性を認め合って暮らしていていることを表現しています。

■市民ワークショップでの意見を踏まえて：市民ワークショップでは、地域に暮らすいろんな人たちが、いろんな活動をしていて、そこに気軽に参加できることがいい、といったご意見がありました。みんながやりたいことができている状態を“誰もが自分らしくいられる”と表現しました。

■方向性によるまちのイメージ：誰もがお互いを認め合い、地域とのつながり方を選びながら、それぞれの持てる力を発揮でき地域であれば、自分らしく暮らし続けることができるため、生涯住み続けたいと思える愛着が芽生えると考えられます。